



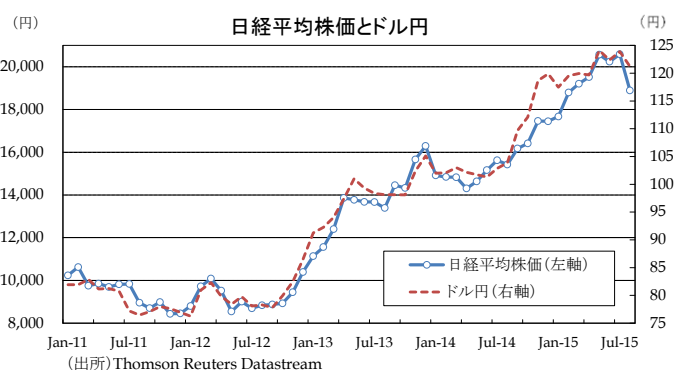
2015年9月14日

海外投資家の8月の記録的な日本株売り越しとドル円相場

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 上席研究員 加藤 淳

先月（2015年8月）の日経平均株価は前月比8.2%の下落となったが、取引所が公表する投資部門別売買動向によると、下落を主導したのは海外投資家であった。同月の海外投資家による日本株（先物を含む）の売り越し額は、リーマンショック以降最大となる2.7兆円と記録的な金額であった。

近年、グローバルなリスクオン／リスクオフの流れの中で株価と為替の相関が高まっているが、その一因として、海外投資家の日本株買いとそれに絡んだ為替ヘッジとしての円売り、さらにはこうした操作に着目した高速・高頻度のプログラム売買による株式・為替の同時売買の存在が指摘される（日銀レビュー2013年12月）。



2012年11月の衆議院解散劇から始まった、いわゆるアベノミクス相場では、日経平均株価は8,000円台から2万円超まで、ドル円相場は80円割れの水準から125円台後半まで、今年半ばにかけて比較的順調に上昇してきた。こうした中で、日本株上昇を主導してきた海外投資家に先月みられた記録的な日本株売り越しは、日本株のみならずドル円相場においても、中期的なトレンドの変化を示唆しているかも知れない。

日米金融政策の方向性の相違から、今後のドル円相場の見通しとして、引き続きドル高円安方向を見込む向きは少なくないものの、2015年6月の黒田日銀総裁の衆議院財務金融委員会における発言にもあったとおり、実質実効為替レートでみると、すでにドル円相場はかなりの円安水準にある。2015年6月5日の125円86銭が今年の高値となり、ドル円相場のトレンドがすでに転換した可能性にも留意しておきたい。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。